



ピアノソング記念館の春（北見市）

## 巻頭言



北海道経済連合会 常任理事

**丸谷 智保**

(株)セコマ 代表取締役社長

# 道経連会報 No.266 CONTENTS

巻頭言	1
道経連講演会	2
常任理事会レポート	13
経済施策説明	14
委員会等の動き	20
会員企業紹介	28
会員の異動	31
新会員企業紹介	32
グループ活動報告	39
道経連カレンダー	40
北海道の経済動向	46
人事・労務相談日	48
わがまち紹介（シリーズ36）	49

## 「楽観主義は意志である」

これは、フランスの哲学者アランの言葉である。曰く、「悲観主義は気分のものであり、楽観主義は意志である」と。則ち、悲観論は厭世的な「気分」の中で、誰でも唱えられるが、楽観論は「意志」を持って、ポジティブな基盤の上に立脚しなければ、その境地に至れるものではない。ましてや、「悲観的な」見通しや数字ばかりを目にする現状に於いてをや、である。

昨年の11月にセイコーマート利尻店のリニューアルオープンのセレモニーがあり、丘珠空港から空路、利尻島に入った。わずか40分のフライトはさほどの揺れもなく快適に冬の離島に降り立つことが出来た。時折雪が吹き付け寒い日であったが、店舗前には花輪が並び（写真）、朝早くから多くの島民が来店してくれた。鉛色の空とは裏腹に、店舗の周辺は暗さなどない。熱く、明るいのである。

利尻島は、人口わずか4,500人。そこにセ

イコーマートは3店舗もあり、それぞれが立派な売上を上げている。確かにこの時期、島のホテルは一軒しか営業しておらず、そこも11月末にはいったん休業する。それでも、何故か活気すら感じるのである。

利尻店のオーナーは「この時期でも近海に漁に出ます。4月になると一斉にホテルや民宿がオープンし始めます。夏になると人手が足りず、多くの方が島に入り、観光や漁業を助けます。夏の間だけ沖縄からくる人たちもいます。冬には沖縄に戻ってゆくのです。」と話してくれた。なるほど、統計上の人口減を嘆くのではなく、住民票を移さずに増える流入人口もしっかり取り込むことで島の「年間の」活気は保たれている。

ホテルでタクシーを頼むと、立派な車がやってきた。ドライバーは社長で自らハンドルを握っていた。会社は隆々としており、夏は10人ほど使っているようであるが、「この時期は私一人で足りるんですよ。」と何の屈託もなくお話をされていた。

意志でもって楽観主義を実践している人とお見受けした。

セイコーマートの店舗がある自治体で、人口は減少しているが売上が増えている地域が51か所もある。その中に店舗は272店あり、おおよそマーケットの長期予想とは裏腹の事実が存在する。

人口減や高齢化の進展は、食品マーケットには逆風である。しかし、すべてがそのトレ

ンドに従って動くわけでは無い。地域に密着し、ニーズを深く汲み取れば新たなチャンスが生まれる。見えなかった可能性が見えてくる。

また、地域との関係性が高まると、眠っている様々な良質な原材料が見えてくる。それらを発掘し、商品化して広く世に出すこともできる。

「市場」とは、人口要素で語る平面性と、関係性による三次元要素から成り立っている。決して二次元だけの世界では無いことを、先の51の地域は雄弁に物語っている。

北海道の持つ発展可能性を信じ、意志を持って楽観主義を貫きたい。地域密着を経営理念とし、「大樹深根」倒れない企業として、これからも「ここにあるおいしさを、お手ごろに」(セコマタグライン)皆様のところへお届けしたいと思っている。

**Secoma**  
ここにあるおいしさを、お手ごろに



利尻店